

WEbook

better world



Pick up topic

世界の子どもと教育



資金支援 物資支援 ボランティア 啓発活動 自己行動変革 政策提言

教育格差 + 古本募金 = 教育の機会を応援

古本を集めて換金して教育の機会を応援しよう！

WE Book Better Worldでは、お家に眠っている読まない本を集めてお金に変える事で、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンの支援地域の子も達に学用品を届ける事ができます。学校に入学できても、家庭としてお金がかかる学用品が原因で、退学してしまうこともあるため、キャンペーンに参加して、学校に通い続けるチカラとなろう！

世界では… 現在、世界の6歳～17歳の子どもの
6人に1人にあたる2億5,800万人が学校に通えていません。



農村自立支援における目標



3,000円

=制服や文房具などの学用品
1セットを届けることができる！

WE Book Better Worldキャンペーンキットは、アクションを起こすための基本的な4つのステップを踏みながらアクションを起こせるようになっていきます。仲間と一緒にアクションを起こせるキット内容ですが、1人でももちろん大丈夫！私たちフリー・ザ・チルドレンも、1人の少年のアクションから始まりました。

フリー・ザ・チルドレンとは

1995年、ひとりの12歳の少年、クレイグから始まったフリー・ザ・チルドレン。「子どもになんか何もできないよ」、「おとなになってからやれば」と、活動を始めた当初、クレイグくんは周りからそう言われました。でも、「子どもだって変化を起こせる。子どもだからこそできることがある。」と信じて活動を続けたところ、だんだん仲間が増え、これまでに45か国以上で390万人の子どもや若者が活動に参加し、その結果、開発途上国に1,500校以上の学校を建設、100万人以上の人々が安全な水を飲めるようになりました。

日本ではカナダの理念に賛同するパートナー団体として1999年から活動を開始し、「子どもや若者は助けられるだけの存在ではなく、自身が変化を起こす担い手である」という理念のもと、子どもや若者が自分の持つ力を発揮して、より良い世界をめざし行動を起こせるよう環境づくりに取り組み続けています。

(写真) 支援先のコミュニティーにて撮影
フリー・ザ・チルドレン設立者のクレイグ・キールバーガー、ケニアの子どもたち、マララ・ユスフザイ(2014年ノーベル平和賞受賞)



さあ、一緒にアクションを起こしていこう！

キャンペーンキット -目次-

ステップ1 問題やアクションに必要なことを調べよう

数字で知る「世界の子どもと教育」 /参考サイト	03
ストーリーで知る「世界の子どもと教育」	04
調べて学んだことを整理しよう	05
WE Book Better World アクションの基本ステップ	06

ステップ2 目標を決めてアクション計画を立てよう

ゴールを決めよう /必要なことを整理しよう	07
役割分担をしよう /危機管理を考えよう	08
スケジュールを確認しよう	09

ステップ3 TAKE ACTION!アクションを起こそう

活動をやりきるアドバイス /活動する時に守ってほしいこと	10
活動中の記録を取ろう	11

ステップ4 アクションを振り返り、報告・お祝いしよう

アクションを振り返り、報告・お祝いしよう	12
----------------------	----

振り返りシート	13
活動終了証	14
キャンペーンチラシ	15

ステップ1 :問題やアクションに必要なことを調べよう！

◆数字で知る「世界の子どもと教育」

世界では…

- ・現在、世界の6歳～17歳の子どもの6人に1人にあたる約2億5,800万人が学校に通っていません。
- ・世界の子どもの12人に1人にあたる約5,900万人が小学校に通っていません。
- ・世界の20%の子ども達は、小学校4年生に進学することが出来ません。
- ・サハラ以南アフリカの3人に1人の子ども達は学校に通っていません。
- ・難民の子ども達で小学校に入学できるのは、50%のみです。
- ・紛争地域の女の子たちの90%以上が中等教育に通っていません。
- ・全世界の子ども達が、初等教育・中等教育を受けられるようにするためには、あと6,900万人の教員が必要です。
- ・すべての子ども達に中等教育（日本でいう中学校・高校）を提供している国々では、戦争のリスクが半減しました。



SDGs(持続可能な開発目標)では…



ゴール4で
「すべての人が公平に、良い教育を受けられるように、
また一生に渡って学習できる機会を広める」ことを掲げている

- ・すべての人が基礎教育(小中学校)を受けられるようにする、教育の環境を整える
- ・若者や大人がより良い仕事が得られるように職業訓練などの教育を受けられるようにする

調べ学習参考サイト

[子どもの権利条約 /フリー・ザ・チルドレン・ジャパン](#)

[子どもの権利条約 /UNICEF](#)

[SDGs /国際連合広報センター](#)

[JAPAN SDGs Action Platform / 外務省](#)

[SDGs17目標と169ターゲット /UNICEF](#)

[農村自立支援-教育- /フリー・ザ・チルドレン・ジャパン](#)

[SDGs4教育キャンペーン2020 /教育協力NGOネットワーク](#)

[世界の子ども達のストーリー（教育）/UNICEF](#)

◆ストーリーで知る「世界の子どもと教育」

ミルカは、ボメット郡にある小さな村で生まれ、6人兄弟の5番目として育ちました。母親のロノの影響で、本を読むのが好きでした。ロノはトウモロコシ農家ですが、小学校を卒業した数少ない女性の一人で、地元の小学校で教師のアルバイトもしていました。ロノは子ども達のたちに、「教育をちゃんと受けたから小学校の先生として働ける。」「もっと教育を受けていたら、できることがどれだけ増えるか考えてみて。」と、よく言っていました。自分よりさらに上を目指して欲しかったのです。この地域では、ひと世代前には、小学校教育を受けられる人もあまり居ませんでした。子ども達に良い教育を受けさせたいと思っても、小学校には、教材や教室が十分にありません。高校も少なく、あったとしても授業料が払えない親が多く、どの子を学校にやるか選ばなければならない、家事の担い手である女子は、取り残される傾向にありました。1999年にこの地域でフリー・ザ・チルドレンが、教室建設・教員育成・教材提供などの支援活動をはじめ、質の高い初等教育を受けられる機会が増えていきました。



ミルカ・チェプクルイ
2018年キサルニ女子高校卒業生総代

「学校が大好き。色んなことを学びたい！」

ミルカは学習意欲が高く、高校に進学することを夢見ていましたが、学校を欠席することが多くありました。両親は、農作物の販売とパートタイム教師としての収入だけで6人の子どもを食べさせ、学校にも行かせていました。ケニアの初等教育は無償ですが、それでも制服や学用品、受験費用の支払いもありました。また、高校は無償ではありません。ミルカが5年生の時には上の兄弟2人が高校に行っていたので、経済的な負担はすでに大きかったのです。そのため、ミルカは試験の受験費や学用品の支払いができず、学校に通えないことが度々ありました。両親は、他の農場でも働きましたが、それでも足りませんでした。欠席した分に追いつくため、ロノは仕事が終わってから熱心に子ども達に勉強を教えました。ミルカが8年生になるまでに、家族みんなでどうにかお金を貯め、彼女は卒業試験を受けることができました。トップクラスの成績を収め、学校から表彰もされました。しかし、ミルカは喜ぶことが出来ませんでした。小学校を卒業出来ても、高校に進学する金銭的余裕は家になかったからです。その頃は、毎晩のように泣いていました。

そんな時、隣人からキサルニ女子学校の存在を聞きました。ミルカは、希望を持つことさえ怖かったものの、勇気を出して入学できるかどうか尋ねに行きました。すると、優秀な成績を収めていたこともあり、授業料全額免除の奨学金を得ることができました。キサルニの責任者であるジョアン・バサロは、経済が成長、発展していくために最も効果的な方法は女子教育であると信じています。「教育を受けた女子が、多くの障害を取り払い、貧困と無教育の連鎖を断ち切る鍵となります。そして学校に通うことで、女の子たちの夢は更に膨らみます。」そうジョアンは言います。

ミルカの夢は外科医になることです。学校の図書館にあった古い雑誌に書かれていたカーソン医師（現在はアメリカの政治家）を目にしたのは、ミルカがキサルニに入学して間もない頃でした。貧しい家庭に育ったカーソンが、子どもの頃に起こった数々の苦難を乗り越え、世界的に有名な神経外科医になり、遂にはアメリカの住宅都市開発長官にまで上り詰めた話に触発され、ミルカはそれまで以上に努力するようになりました。毎朝1時間早く起きて予習をし、週末も勉強に時間をさきました。この努力は報われ、ミルカは、高校全国統一試験でB+という成績をとったのです。この成績なら、十分、政府が全額提供する奨学金で大学に行くことができます。既に、ケニアにある複数の大学に願書を提出し、そのうちのどこかに今年入学予定です。



ミルカは、両親の夢や教え、彼女自身の懸命の努力等、すべての経験が目前の問題に立ち向かう力をくれたと言います。彼女は、この地域の「女性の神経外科医第一号」になって、女の子だって大きな夢をもてると思わせるような存在になりたいと強く思っています。

◆調べ学習から何を学んだかな？

子ども達が学校に行けない理由はなんだろう。また、女の子が、男の子よりも学校に通うことができていないのはなぜだろう。どうしたら、みんなが通えるようになるのだろう。

学校に行けなかったら、自分は何をする？生活/人生はどう変わるだろう？

教育は貧困解決の鍵だとも言われているが、それはなぜだろう？

学用品(文房具/制服)の提供により、子どもやその家族にどんな変化が起きるだろう？

WE Book Better World アクションの基本ステップ

1. 古本を集める

▼集め方を工夫する

家の大掃除で家族と協力、友達と持ち寄る、学校で呼びかけて、など様々！
呼びかける時も、みんなに楽しく参加してもらえるように工夫してみよう。

▼集められるものを確認する

買い取り業者によって集めているものも異なるので、先に確認しておこう。

2. 買い取り業者へ販売/換金

▼買い取り業者を決める

- ・近所のお店に持ち込む、または集荷を依頼する
- ・フリー・ザ・チルドレン・ジャパンが提携しているお店に集荷を依頼する



FTCJ連携企業

本棚お助け隊「古本チャリティ募金」 (詳細 <https://ftcj.org/donate/goods#book>)

1箱までは送料無料で査定。本の買い取り金額+10%が、企業から直接フリー・ザ・チルドレン・ジャパンへ寄付として送られる。お金のやり取りが不要。(金額はメール/電話で本棚お助け隊より連絡)

3. お金を届ける

▼集まったお金を、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンまで届ける

(本棚お助け隊利用の場合は、お金のやり取りは自身では不要です。月ごとにまとめて団体に届けられます。)

事務局に持参 (要事前連絡)

住所：〒157-0062 東京都世田谷区南烏山6-6-5 3F (平日12時-18時)

銀行振込

三菱UFJ銀行 上野支店 普通 5360502 トクヒ) フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

郵便振替

00120-5-161532 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

<注意点>

※手数料はご負担頂いています

※振込後、振込情報のご登録が必要です

登録フォーム：<https://ws.formzu.net/fgen/S9155716/>

Q 日本から物を届けるのではなく、資金を集めてお金を送り、そして現地で学用品を調達して提供する理由(そうすることで起きる良い影響)はなんだろう？

ステップ2 :アクションの計画を立てよう！

問題について学んだら、アクションのゴールを決めよう！3,000円で学用品1セット。何セットの提供を目指すかは自分次第！教育の機会を応援するために挑戦してみよう！

アクションのゴール



- ・何人がこの活動に参加する？ _____ 人
- ・いつ・どれくらいの期間実施する？
【開始日】 _____ 【終了日】 _____
- ・メンバー1人1人のゴールは？（例：「1人10冊以上集める」「集めた古本の換金金額1人1,000円以上」など）
_____ 円 / 冊（どちらかに○）
- ・グループで、 _____ 円（ _____ セット分）を集める。

古本の集め方

（いつ・どこで・どうやって集める？個人で？グループ内で？広く呼びかける？）

◆必要なことを整理しよう

アクションを起こす上で、味方になってくれる人/助けになってくれる人は誰だろう？友達、先生、家族、地域の政治家、企業など、考えられる人を書き出そう。すべきことはなんだろう？必要な資材などは何があるだろう？

こと	もの	ひと

◆役割分担をしよう

行うことに対して担当する人（責任を持つ人）を決めておくと、円滑に活動ができるよ。考えられる役割を書き出して決めよう。

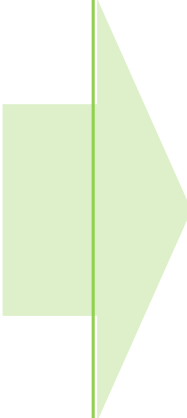
例えば、ポスター/チラシを作る、先生に許可を取る、集まった本を管理する、古本業者を調べる・連絡を取る、などなど、他にも様々な役割がある。

役割	担当する人

◆危機管理を考えよう

アクションを進めていくと、壁に直面することもある。事前に対処策を考えておくと、実際に何か起こった場合もスムーズに解決することができるよ。

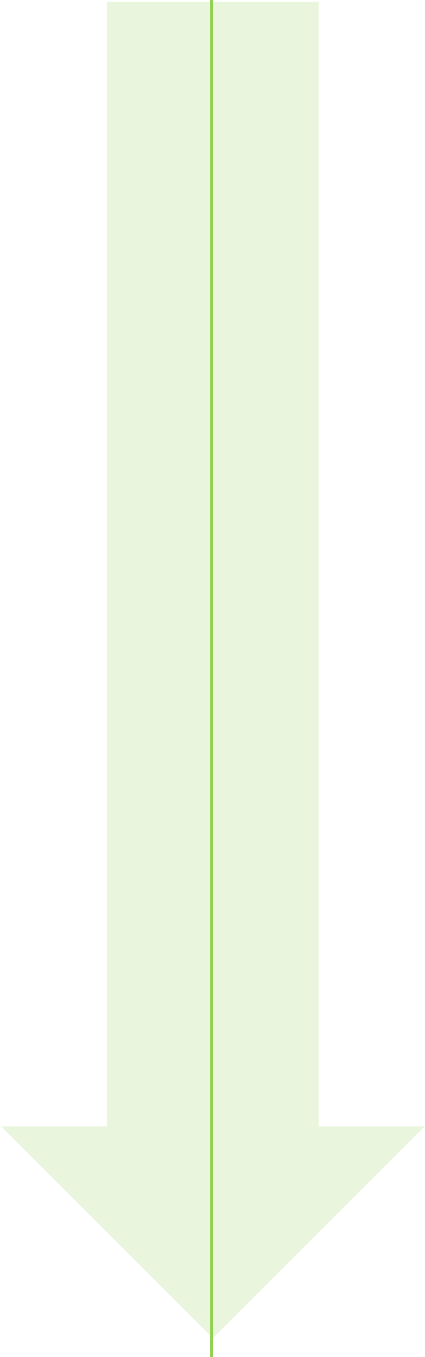
例えば、目標の金額が集まらなかったら、どうする？アクションの期間を延長する？他の方法で足りない分を集める？どんな方法で？「これだ！」という対処策を決めておこう。

考えられる困難	対応策
	

◆スケジュールを確認しよう

ゴール達成に向けて、いつ何を行うのか、計画を立てよう。

大切な日付（アクションプランニングをしている今日、目標達成日、学校の行事などに合わせる場合のすでに決まっている日程など）を先に書き、達成させるために必要な鼓動を書き埋めていこう。

日付	やること
<p>例) 7月20日</p> 	<p>例) 全校集会で、夏休みが明けた始業式の日にも古本を集めることを呼びかける。</p>

ステップ3 TAKE ACTION! アクションを起こそう

遂にアクションを起こすとき！
活動中の写真や現状を発信しよう。
SNSで発信する時は、ハッシュタグも忘れずに。

アクションが上手くいかず、モチベーションが下がってしまった時には、調べ学習で感じたことや、目標を立てた時の想いに立ち戻ろう。

キャンペーン
ハッシュタグ

#WEBookBetterWorld

～活動をやりきるアドバイス～

- ・楽しさを取り入れよう。
例：ミーティングの最初にアイスブレイクゲームをしてみよう。
- ・活動の成果に途中途中で目を向けて、成果を実感していこう。
- ・お互いに頑張っていること、よかったことを言葉にして伝えよう。
- ・無理なく実施ができていないか、時と場合に応じて計画は見直そう。

楽しむことを忘れずに！

活動する時に守ってほしいこと

- 1 多様性を認め合い、年齢、人種、宗教・信条、民族性、障害、性的指向、外見を基準に差別や相手を傷つけるような言動・暴力はせず、それぞれの個性を尊重する。もし意図せず相手を傷つけてしまったら、立場に関係なく気持ちを込めて謝罪をする。
- 2 熱中症対策、交通機関のルール確認、避難経路の確認など、安全に十分に配慮する。
- 3 メンバーの顔写真や名前などの個人情報を本人の許可なく無断でSNSに載せない。
- 4 活動を通じて知り合った大人や子どもと、活動と無関係な理由で頻繁に電話やメールをしない。困ったらすぐに先生や大人に相談する。
- 5 子どもと大人は密室で2人きりにならない。
- 6 お金の貸し借りはしない。活動にお金が必要な場合は、どのように集め・管理するかしっかりと話し合って決めよう。

※子どもの権利条約に従い、「子ども」とは18歳未満のすべての人と定義しています。18歳未満の子どもは、権利を持つ主体と位置付けられ、おとなと同様ひとりの人間としての人権を認めるとともに、成長の過程で特別な保護や配慮が必要と考えています。

◆活動中の記録を取ろう

成果や感じたことは、活動中に記録をしておこう。下の記録スペースも活用してください。振り返り/ポートフォリオ用ワークシートもあらかじめ見ておこう!

📝記録のポイント

成果の記録

- ・アクションを実施した期間(日数)
- ・設定した数値目標に対する結果(協力者数や成果の数値)

過程の記録

- ・成果を出すために、どのような行動を起こしたか。(簡単だったこと、難しかったこと)
- ・一番楽しかったこと、印象に残ったことはどんなことか。
- ・地域の人たちは活動に参加してくれたか。
- ・次回行おうとしたら、改善したいことはなにか。
- ・このアクションでどんな影響を与えることが出来たと思うか。

★写真や動画を撮れる場合

活動中の様子、活動場所の様子、準備したもの、成果物、新聞記事などを記録しよう!

📝活動中に気づいたことを記録しておこう

ステップ4 アクションを振り返り、報告・お祝いをしよう

◆アクションを振り返ろう！

個人で・グループで、活動中に記録したメモを元に活動を振り返り、経験だけで終わらず、“学び”にしよう。振り返りのワークシートを活用して、ポートフォリオとして保存し、今後も活かしていこう。

◆アクションを報告しよう！

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンに活動報告はしましたか？
みんなのアクションが集まれば、そのチカラはもっと大きくなる！

アクション報告フォーム ⇒ <https://ftcj.org/we-movement/westory>

正式書類として活動終了証を利用する際に、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンからの証明サインが必要な場合は、以下の2点をお送り下さい。

- ①アクション報告フォームを入力
もしくは、記入済みの「振り返り/ポートフォリオ用ワークシート」スキャンデータ
- ②記入済みの「活動終了証」のスキャンデータ
※活動時に指導者がいる場合は、指導者のサインとコメントの記入必須

送付先：info@ftcj.org 件名：活動証明発行依頼 ※学校名・学年・氏名・電話番号を明記

◆アクションをお祝いしよう！

アクションの成功をお祝い・そして周囲に共有して、頑張った自分を称えよう！

- ・活動をまとめたポスターを作成して、掲示する
- ・活動中の写真や動画記録を作って学校のウェブサイトでも発信する
- ・活動を報告スピーチを全校集会やホームルームで行う
- ・活動をお祝いする賞状（活動終了証）を送る
- ・アクションをお祝いするイベント（報告会）を開く
- ・**Change Makers Fesに参加する！**

国内外の社会課題に対してアクションを起こした子ども・若者を招待し、その活動を祝い、発展に繋げるライブイベントChange Makers Fes（チェンジメーカー・フェス）を初開催します！子どもや若者世代が主役となって誰一人取り残されない持続可能な社会をつくるムーブメントに、あなたも参加しませんか？
詳しくはWEBサイトへ <https://ftcj.org/changemakersfes>

◆アクションを続けていこう！

SDGsを達成するためには、一人一人が継続してアクションを続けることがとても重要です。この成功体験を活かして、これからも活動を続けていこう！

【記入日】 _____年 _____月 _____日 学年 _____ クラス _____ 番号 _____ 名前 (_____)

実施内容

--

取り組んだ社会問題

	SDGsゴール
--	---------

実施期間

_____年 _____月 _____日 ~ _____年 _____月 _____日

メンバー

_____人 (名前: _____)

協力者数**成果**

_____円、 _____冊 を集めた

寄付先/活動先**振り返り**

▶取り組んだ社会問題はなぜ問題なのか、このアクションはどんな変化に繋がるのか

▶目標達成に向けて、あなたが/チームが工夫したこと、達成できたこと

▶困難だったこと、どう乗り越えたか、次回行うとしたら、改善すること

▶このアクションを通じて、学んだこと

“WEBook Better World” 活動終了証

殿

あなたは ” WE Book Better World ” キャンペーンに参加し、社会問題を学び、
解決のためのアクションを考え・実行しました。
ここに、そのアクションキャンペーンの終了を記します。
引き続きアクションを起こしていきましょう！
Be the Change!

活動期間：

参加人数：

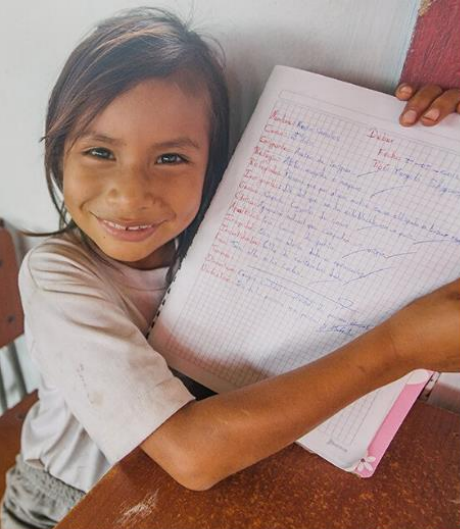
社会問題：

実施内容：

活動を共にした仲間からメッセージをもらおう！

活動証明者記入欄（必要な場合のみ利用）

指導者	フリー・ザ・チルドレン・ジャパン事務局



WE FREE THE CHILDREN

眠っている本が大きなチカラに！
古本を集めて換金して教育の機会を応援しよう！

WE Book Better World



3,000円



学用品
1人分



世界では…

- ・約6,000万人の子ども達が小学校に通っていません。
- ・基礎教育を受けられなかった結果、現在も約7億5,000万人の大人が文字の読み書きができません。



4

質の高い教育を
みんなに



SDGs(持続可能な開発目標)では、2030年までに、
すべての子どもが男女の区別なく、適切かつ有効な学習成果をもたらす、自由かつ公平で質の高い初等教育および中等教育を修了できるようにすることを目指しています。

フリー・ザ・チルドレンは、WE Book Better Worldキャンペーンを通じ、
子ども達が学校に通い学習を続け自立できるよう、教育プロジェクトをします。

教室や図書室の建設や修繕、教員の宿泊施設の建設、教員育成、課外活動クラブなどを実施。

定期的に必要となる学用品の支援は、途中退学を防ぐ手段のひとつ。

詳しい「教育プロジェクト」については、ウェブサイトでご確認ください。

■活動方法

- ・古本を集めて、古本買い取り業者に買い取ってもらう。(近所のお店へ持ち込み、無料集荷をしているところも多くあります。)
- ・販売して得たお金を事務所に直接お持ちいただくか、以下の口座までお振込みください。

※振込手数料はご負担いただいております。ご協力のほどお願いいたします。

<銀行振込> 三菱東京UFJ銀行 上野支店 普通5360502 (トクヒ) フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

<郵便振替> 00120-5-161532 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

※フリー・ザ・チルドレン・ジャパンが提携している”本棚お助け隊”の”古本チャリティ募金”を利用すれば、査定後、本の買い取り金額+10%が直接寄付として送ることができます。お金のやり取りを自分でしなくてもよいので、心配いらずです。

■アクションを報告する

- フリー・ザ・チルドレン・ジャパンに報告してChange Makers Fesに参加しよう！ (<https://ftcj.org/changemakersfes>)
- SNSで報告⇒ハッシュタグ #WEBookBetterWorld を付けてキャンペーンを広めよう！

WE FREE THE CHILDREN

「世界は変えられる」子どもがそう信じられる社会に
認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンは、1995年、貧困や搾取から子どもを解放することを目的に、カナダのクレイグ・キールバーガー(当時12歳)によって設立された、「Free The Children」の理念に賛同するパートナー団体として、1999年から日本で活動を始めました。子どもや若者が国内外の問題に取組み、変化を起こすチェンジメーカーになれるよう、エンパワーしています。

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山6-6-5 3F TEL: 03-6321-8948 EMAIL: info@ftcj.org WEB: www.ftcj.org

TOGETHER WE WILL
change the *World*



本資料集は、「大東建託グループ未来基金」
のご支援によって作成されました。

お問い合わせ

認定NPO法人 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山6-6-5 3F

TEL 03-6321-8948 Email info@ftcj.org HP <http://ftcj.org>

